

日本評価学会 社会実験分科会2020研究報告会
 パネルディスカッション
 (2020年5月16日10~12時)

エビデンスに基づく政策立案 (EBPM)の普及に向けて

司会 津 富 宏 (静岡県立大学)

1

企画趣旨

日本評価研究 EBPM特集号 (2020年春号)の発刊を期して、日本におけるEBPMの展開について議論を交わす

2

論者

正木朋也 (JICA)
 田辺智子 (国立国会図書館)
 小林庸平 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング)
 西畑宏治 (広島県庁)
 森俊郎 (岐阜県養老町立笠郷小学校)
 佐々木亮 (国際開発センター)

砂山裕 (内閣府) *資料配布のみ

3

本日の進め方

導入 (今、ここ)	5分
論者紹介	5分
論者からのプレゼン (10分×7人=)	70分
私からの質問 (2問)	15分
フロアからの質問 (3, 4問程度)	20分
最後に論者から	5分

4

いくつかの問い

EBPMのアクターは誰か

政府の役割はどうあるべきか

エビデンス仲介機関はどうあるべきか

EBPMとは何か

この概念を用いることの価値は何か

EBMとは違うのか違うのか

違うとしてどこが同じでどこが違うのか

EBMから学べることはなにか

EBMが当てはまらないことはなにか

海外の動きと比べてどうなのか どこを学ぶべきか

5

EBPMにおけるPDCAをどう回すか

EBPMにおけた組織づくりをどうするか

民主主義的な意思決定との関係をどう位置づけるか

予算削減（緊縮）政策とエビデンス利用の関係をどう考えるか

EBPMと業績評価との関係をどう整理するか

EBPMにおけるアウトカム設定はどのようにすればよいか

EBPMにおける分析手法の質にはどこまでこだわるか

6